



編集・発行  
 日蓮宗 能勢妙見山  
 広報部  
 〒563-0132  
 大阪府豊能郡能勢町野間中  
 電話 072-739-0329  
 FAX 072-739-2883

# 春季彼岸会法要

春分の日を中日とした七日間を彼岸と呼びます  
 ご先祖と自身が仏の世界へ渡れるよう修行する期間とされています  
 当山では3月22日にご先祖への塔婆供養の法要を勤めます

## 〔3月の主な行事〕

- ☆報恩大祈祷会 6日(日)  
 11時 報恩誦誦行 11時半 修法加持特別祈祷  
 12時半 車両交通安全特別祈祷 (大駐車場にて)
- ★月例祈願法要 15日(火)13時
- ★春季彼岸会法要 22日(火)13時
- ★鷗様月例祭 22日(火)15時  
 ご祈祷を受けた方には火伏せの黒札を授与

## 〔4月の行事予定〕

- ★月例祈願法要 15日(金)13時  
 妙見様に願いを書いた祈願矢を献納します
- ☆開運祭 20日(水)終日  
 この日限定の「勝利開運之守」を授与します
- ★鷗様月例祭 22日(金)13時
- ☆星嶺祭 29日(祝)  
 子供の成長を祈る祈願大法です  
 参加の子供には御祈祷札・御守り・記念品を授与

- 写経会・清掃の日・星嶺演奏会・茶論は当面の間休止
- 諸行事は社会情勢により変更する場合があります
- ◎ご祈祷・ご回向等は  
 郵便・FAX・メールでも受け付けています
- ◎写経はご自宅でもできます お問合せ下さい
- 出会いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中
- 登山カード押印は休止
- 送迎車の運行は休止しています
- ◆ケーブル&リフトは3月18日まで運休中です  
 (詳細は能勢電鉄へお問い合わせ下さい)

# 中道（ちゆうどう）

新實信導

仏教行事は、インドや中国から伝わったものが多いが、春秋の彼岸会だけは日本固有の行事である。

春の彼岸は、これから一日と昼の時間が長くなり気温も上昇してくる。そしてまもなく桜の開花も近づき、明らかに自然が私たちに希望を与えてくれる。秋の彼岸は、やっと夏の猛暑から解放され、暑い日差しに照らされる日中とは対象的に夜は月明かりと虫の音の美しい夜が次第に長くなりいつしか心が落ち着く。

私たちは、毎日欠かさず仏道修行を続けなければならぬと思いつつも、日々の生活に追われ、おろそかになってしまふことが多い。そこで農繁期を避け、一年の中で一番気候のよい彼岸の時期に仏道修行をおこなうのが効果的であると考える。

た先人たちは、一週間という一定期間を設け修行の機縁を作ったのではなからうか。また暑くもなく寒くもなく気候のよいこの時期からも中道の教えが兼ねられているといえる。

仏様は、中道の大切さを知り、楽に流されることなく、且つ極端に頑張ることを戒められている。

仏弟子ソーナ・コーリヴィーサは、足から出血するほど厳しい修行を続けた。だが、なかなか悟りを得られず、仏様に「私には修行は不向きです」と去る決意を告げた。すると仏様は彼に向かつてこう言われた。

「あなたは琴を習っていますね。琴は糸を張りすぎても緩すぎても、よい音は出ない。ちょうどよい張り方をしてこそ、よい音が出る。悟りに至る道もこれと同じである。怠れば道を得られず、張りつめて努力しても悟りには至らない。人は

努力する程度を考えなければならぬ」と。そしてソーナはこの教えを受け入れ、やがて悟りに至ることができた。

彼岸は、さとりを求めて修行に励み、善行を重ねて仏の世界へ至ることを目的とする時期。そして、その修行の功德が先祖や先人たちへ届きますようにと供養を行う法会が彼岸会である。無理なく長く続けることが悟りへの一歩である。

## 一口メモ

コラム『法華経茶話』の投稿を続けて下さったのは栗原啓文上人です。法華経について分かりやすく、しかも実のあるお話しを語るのには容易なことではありません。遡って四年前、平成三十年四月号からの連載でした。今号で最終回となりましたが、またどこかの誌面でお会いすることを楽しみに、更なるご活躍をお祈りしております。

## 《法華経に学ぶ現代》

純智庵

若し

能く

修行せば

我當に

汝が爲に

説くべし

『提婆達多品第十二』

ちゃんとやる気を

起こすなら

話してやってもいいけれど

ただ聞くだけじゃ分かるまい

心に感じたことならば

それを体で学ぶよう

不断の努力が肝心だ

継続こそは力なり

三日坊主にやなるまいぞ

## 法華経茶話Ⅱ

七仏通戒偈

さて「五蘊」や

「十二支縁起」等、日常用語ではない言葉ばかりで混乱してしまつたかもしれませぬ。でも安心して

ください。釈尊の言いたかつたことは、たつた一言に集約することができのです。それが「七仏通戒偈」という教えです。諸悪膜作（悪いことをしない）衆善奉行（善いことをする）自浄其意（自分の心を清らかにする）是諸仏教（これこそが諸仏の教えである）という意味です。

「苦」の根本である「無明」を断ち切るには、自己に囚われず、他者のために善いことをし、そして何より諸経の王である『法華経』に絶対の信を置いて生活することが重要なのです。

今号をもちまして法華経茶話の最終稿とします。最後までお読みいただきありがとうございます。